社会福祉法人福島更生義肢製作所　令和2年度事業報告

法人本部

会議の実施について

理事会、評議員会についてはすべて書面評決となりました。

評議員選定委員会については、本所・福島製作所で開催することができました。

法人運営について

コロナウイルスの感染を防止することに全力を注いだ一年でした。

法人のオリジナルマスクを作成し、全職員に配布し、また、要請があれば職員の家族等にも配布しました。

アルコール消毒液はもとより、より効果のある石鹸等を切らすことなく調達し、公衆衛生の確保を図りました。

体温計を各部署に配置し日々の健康管理に留意しました。

その他、法人内においても、いわゆる「三密」をさける、ソーシャルディスタンスを確保するなどの、基本的な行動を徹底しました。

事業運営について

ストレスが高まる中、患者様目線での業務を行うことを徹底しました。

ベテラン職員に対しては、具体的なケース研究をその都度行うよう指導しました。

人間関係の構築や問題解決に対するケース研究のみならず、補装具の製造についても、ベテラン職員が若手職員に積極的に製作させるよう指導しました。

その結果、ベテラン職員の負担は増加しましたが、一年を通じて徐々に浸透し、一定の成果を上げることができました。

出張先の病院・クリニック・施設等の配置について

福島本所と会津出張所の担当出張先を大幅に変更しました。

出張所には利益の出る出張先を多く配置し、本所は納品まで時間がかかるもの、高度な技術を要するもの、利益ではなく社会的に必要とされる出張先を担当するようにしました。

地域貢献事業について

本年も補装具の無償貸し出し、無償メンテナンス事業を積極的に行いました。

障がい者施設を定期的に訪問し、補装具のみならず、対応できるものについては無償修理を行いました。

研修事業について

本年度はコロナウイルスの感染拡大に伴い、社会状況が大きく変化する中、インターネットを活用した事業が飛躍的に進化した年度であったと判断するところです。

当法人では研修事業や本所と出張所の交流事業等で大きな成果を上げることができました。

ウェブセミナーやウェブ会議は、時間が合えば参加したい誰もが気軽に参加できる、時間や経費などのコストがかからない、参加する側も仲間内で不明な点は確認しあえる。などの利点がありました。

実施事業

日時：令和2年9月5日　土曜日　10時半から11時半

場所：本所２F大会議室

演題：協会けんぽ　出張講座　ヨガでリラックス

講師：スポーツジム　ルネサンス福島２４

その他、インターネットを活用したウェブセミナー、ウェブ会議等に多数参加し、技術と知識の習得に努めました。

収支について

一年を通してみると、緊急事態宣言が出ていた期間は収益がおち、その後回復傾向が見えるという繰り返しでした。

最終的には対前年比９７パーセント２億５２７５万１９３１円を売り上げ、補装具製作事業の増減差額は５７２万４８２５円を確保しました。

借入について

本年は長期運営資金として福祉医療機構より３千万を、福島信用金庫より短期運営資金として１千万円を借り入れました。

本所・福島製作所

業務部門

１，一般病院出張に関して

県内各方部（県北、県中、県南、相双、いわき）の基幹病院を中心に、県内外の個人病院・クリニックを訪問し、業務の展開を図り、売上の向上に努めました。

また、各方部に点在する福祉介護施設からの訪問依頼にも積極的に出向し、迅速な対応に努めました。

しかしながら新型コロナウィルスの影響により病院売り上げはわずかながら減少してしまいました。

２、業務配置に関して

令和２年度は計４名の職員が退職し、その職員のカバーのため福島本所と会津出張所全体での業務配置の大幅変更を実施しました。

また新型コロナウィルスの影響により、病院によっては定期訪問を、電話連絡による不定期訪問に変更せざるを得ないケースもあり、それも踏まえた業務配置を実施しました。

３、職員のスキルアップに関して

今年度は社外の講習会等には参加せず、知識の習得などのスキルアップについては、オンラインで行われるもののみ参加しました。

それに対応するために職場のPC環境を整え、参加できる会議、講習会には積極的に参加しました。

４、福祉業務に関して

病院に掛かっていない利用者からの製作・修理依頼に対し、自宅訪問・施設訪問等の対応をとり、利用者様からの要望に対し、滞りなく手配することができました。

５、売上目標に関して

令和２年度売上目標は補装具製作事業１億６９８０万円（2次補正後、当初予算は１億９５００万円）に対し、売上高は１億８７３２万５３９４円となり当初予算の目標は達成出来ませんでした。

本所・福島製作所　装具製作部門

人的交流について

令和2年度は、コロナウイルス影響があり、メーカー様や出張所職員と、例年のような意見交換や情報交換など、対面による人的交流を行うことができませんでした。

対面式の交流不足を補うため、工場内のウェブ環境を整え、メーカー様主催のウェブセミナーに数多く参加し、例年以上に知識を習得する機会に恵まれました。また、出張所職員との連携も進みました。

製作技術の向上

若手職員に対し、積極的に補装具製作にかかわらせました。令和2年度は、若手職員の多くが、今まで製作に携わったことのない補装具の製作を、最初から最後まで行い、技術力の向上を図ることができました。

製作現場の環境改善について

終業後の清掃はもとより、工作機械のメンテナンスなども、自らで積極的に行いました。

コストの縮減について

材料使用についても、各職員が注意を払って使用するという習慣づけが実を結んできました。極端な無駄遣いも減り、在庫切れを起こすことがなくなりました。

出張所・会津製作所

営業業務

会津地方全域において、自宅及び施設等の訪問により福祉サービスの提供を、迅速に行う事が出ました。

福島県立医科大学会津医療センター、会津中央病院、竹田総合病院を中心にいわき地方、白河地方の業務展開を実現出来ました。またコロナ禍で外来診療や手術が中止になる中、営業業務職員の努力により売上額の減収を最小限に抑える事が出来ました。

本所・福島製作所と情報を共有し効率的な営業業務を行いました。

歳入は予算額（65,500,000円）には届かなかったものの、コロナ禍及び職員数減の中63,500,000円の売上高を達成出来ました。

福祉的活動

近隣施設等において、車椅子の無償点検を行いました。

製作業務

部品・材料メーカーとのリモート勉強会で製作に必要な知識や技術を身につける事が出来ました。